新潟大学　倫理審査委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	**ヒト試料を用いた脳加齢および神経変性疾患の発症を規定する因子の時空間的探索研究**
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
新潟大学脳研究所および関連施設において、2001 年 1 月 1 日から 2026 年 1 月 1 日までの間に同研究所病理学分野のスタッフが病理解剖を施行させて頂いた方の中で、アルツハイマー型認知症もしくはタウオパチー（進行性核上性麻痺や大脳皮質基底核変性症、嗜銀顆粒病など）と診断された方。また、対照として、脳神経疾患ではないと診断された方。	
③オプトアウトの概要	
加齢に伴い生じる病気である認知症などの神経細胞が変性する疾患を対象に、ご献体の脳などの組織とモデル動物の試料を直接比較することで、病気の発症メカニズムを明らかにすることを目的にする研究です。研究の成果が、病気の治療法・治療薬、早期診断法の開発に繋がると考えています。この研究では、研究対象の方の試料・診療情報を利用します。新潟大学脳研究所において収集した試料・情報の一部を、東京大学に提供します。東京大学で試料からタンパク質を抽出して、どのようなタンパク質が病気の進行に関連しているかを検証します。この研究のためにご家族のデータを使用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。研究に参加いただけない場合でも、不利益が生じることはありません。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。	
④申請番号	C2026-0085
⑤研究の目的・意義	アルツハイマー型認知症をはじめとする、様々な神経変性疾患や加齢性の疾患は、いまだに有効な治療法や治療薬の開発が進んでいません。それは、「病気がどのように発症するのか」という発症メカニズムの解明が進んでいないからです。このため、病気を模倣するようなモデル動物を用いて研究が進められてきました。しかし、いかにモデル動物で研究を進めても、ヒトで起こっていることが動物の中で同じ様に起こっているのかを確認する必要があります。この研究は、加齢性の病気、特に、認知症をきたす神経変性疾患を対象に、ご献体の脳組織（髄液、血液や他臓器一部も含む）とモデル動物の試料を直接比較することで、病気の発症メカニズムを明らかにすることを目的にします。その結果を病気の治療法・治療薬、早期診断法の開発に繋げていきます。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2031 年 3 月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ	上記の目的のために、新潟大学脳研究所において収集した試料・情報の一部を、東京大学に提供します。東京大学で解析した結果は、新潟大学

提供される場合はその方法を含む。）	および、共同研究機関である医療法人さわらび会　福祉村病院　長寿医学研究所と共有します。
⑧利用または提供する情報の項目	パラフィン包埋脳組織切片、凍結脳組織、付属する情報（性別・年齢・罹病期間・臨床診断名・病理所見）
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等に遺伝子解析情報や臨床情報で利用いたします。 新潟大学脳研究所　研究責任者　脳資源科学分野・教授・他田真理 共同研究機関 東京大学大学院医学系研究科　研究代表者　　神経病理学分野・教授・齊藤貴志 医療法人さわらび会　福祉村病院　研究責任者　長寿医学研究所・副所長・金田 大太
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学脳研究所　研究責任者　脳資源科学分野・教授・他田真理 東京大学大学院医学系研究科　研究代表者　　神経病理学分野・教授・齊藤貴志 医療法人さわらび会　福祉村病院　研究責任者　長寿医学研究所・副所長・金田 大太
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学脳研究所脳資源科学分野 氏名：他田真理 Tel：025-227-0633 E-mail：tadamari@bri.niigata-u.ac.jp